

常磐公園改修事業
基本計画
(河川空間ぬき)

平成24年8月

旭川市土木部公園みどり課



目 次

1 . 計画地の概要	1
1-1 計画地の沿革	1
1-2 計画地の特性	2
1-2-1 社会的特性	2
1-2-2 自然的特性	3
1-3 計画地の利用状況	6
2 . 計画内容の検討及び設定	7
2-1 上位・関連計画	7
2-1-1 文化芸術ゾーン基本構想	7
2-1-2 旭川市かわまちづくり計画	8
2-1-3 旭川市中心市街地活性化基本計画	9
2-2 現状課題の整理	10
2-3 計画のテーマ及び基本方針	13
2-4 緑の計画（案）	14
2-4-1 基本方針	15
2-4-2 整備方針	16
2-5 ゾーニング・動線計画	17
3 . 個別計画	20
3-1 常磐公園全体	20
3-2 施設周辺区域	24
3-3 河川空間	26
3-4 その他改修計画	27

1. 計画地の概要

1-1 計画地の沿革

本公園は、明治 43 年当初石狩川と牛朱別川に挟まれた中島に公園が造られ、大正 2 年に冷害救助対策として池の掘削を行い、その後 4 年をかけて造成し大正 6 年に開園されました。その後、昭和 5 年に牛朱別川の切替工事が行われ、昭和 8 年には現在のよう
な市街地に隣接した公園となりました。

開園以来 60 年余りが経過し、全般的に老朽化していたことから、昭和 52 年から 61 年までの 10 年間をかけ改修が行われており、ほぼ現在の施設の整備が完了しています。

公園内は、道立美術館や公会堂など文化芸術拠点機能を持つ施設のほか、中央図書館、常磐館の文学資料館、屋外彫刻など文化芸術に関わりの深い施設が多く整備されています。また、緑豊かな樹木や水鳥が浮かぶ千鳥ヶ池など市内中心部とは思えない自然豊かで落ち着いた空間を有しています。

このような歴史性や、市民に永く親しまれている地域性が評価され、平成元年に社団法人日本公園緑地協会の「日本の都市公園 100 選」に選定されています。

常磐公園の概要

面積：15.9ha

公園種別：総合公園

告示年月日：昭和 31 年 10 月 15 日

主な施設：池、親水デッキ、プール、彫刻、モニュメント、記念碑、旧天文台
常磐館、中央図書館、道立美術館、公会堂、石狩川治水学習館
四阿、駐車場、休憩施設、照明施設、水洗トイレ、児童遊具等



1-2 計画地の特性

1-2-1 社会的特性

位置

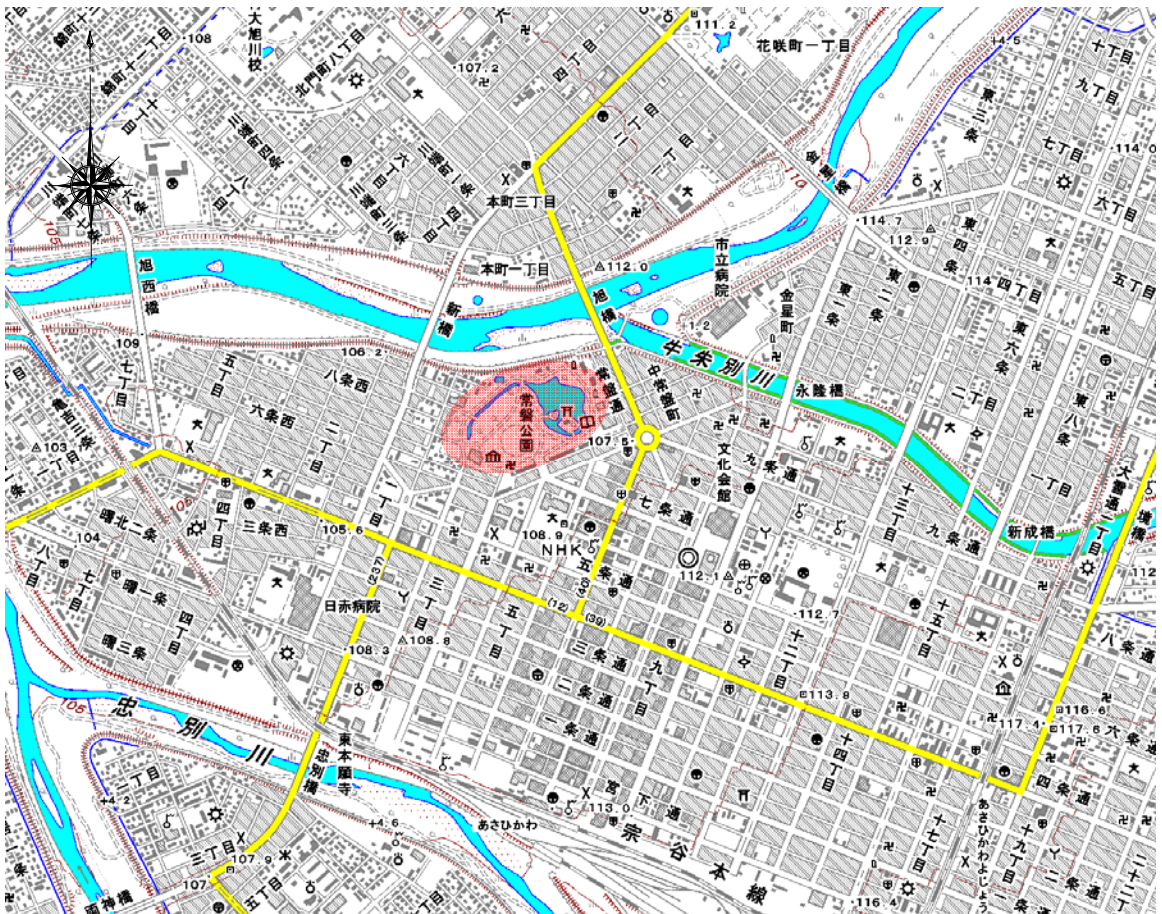
本公園は、旭川市の中心市街地に立地しており、JR 旭川駅より北側に約 1.2km、旭川市役所より北西側に約 500m となっています。

交通・アクセス

本公園の周辺は、敷地東側から南側にかけて一般国道 40 号が走っているほか、敷地南西側には神居旭山通が走っています。

メインアクセスは敷地南側となっており、隣接する 7 条緑道をからの徒歩での来園者も多く、敷地内東側には中央図書館を初め公会堂、石狩川治水学習館、常磐館が、敷地内西側には道立美術館が在り、各々駐車場が整備されています。

図表 1-1 位置図



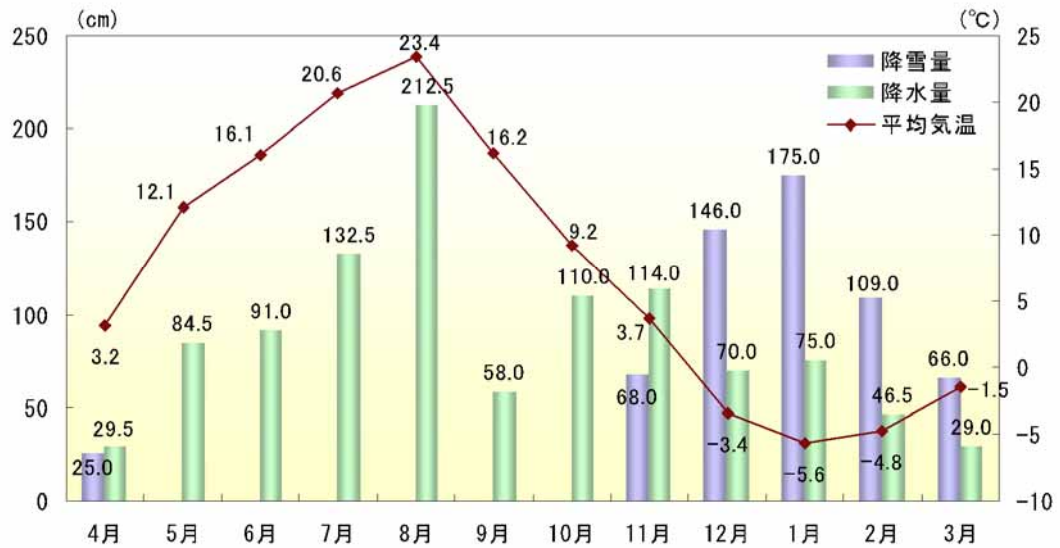
「この地図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図（旭川）を使用したものである。」

1-2-2 自然的特性

気象

本公園が立地する旭川市は内陸特有の気候で、年間の気温差が大きく夏季は暑く冬季は北海道の中でも屈指の寒さとなっています。年間の降水量は1,074mmと比較的少ない降水量となっています。

図表 1-2 旭川市の年間気温と降水量



出典：気象庁ホームページより

地質

旭川西部を中心とし半放射状に流路を示す石狩川本流及びその支流オサラッペ川、牛朱別川、忠別川、美瑛川等に沿う狭い地域には、沖積層が発達しています。これらは、主として砂礫よりなり、前期沖積層より一段低い面を構成していますが、流路の変化に伴い、しだいにその面積を広げつつあります。

水系

本公園北側には、一級河川である石狩川水系石狩川と石狩川一次支川である牛朱別川が隣接しています。

野鳥

本公園では、千鳥ヶ池で羽を休めるマガモやコガモをはじめキジバト、アオバト、アカゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、シメ、ムクドリなど多様な野鳥を観ることができます。

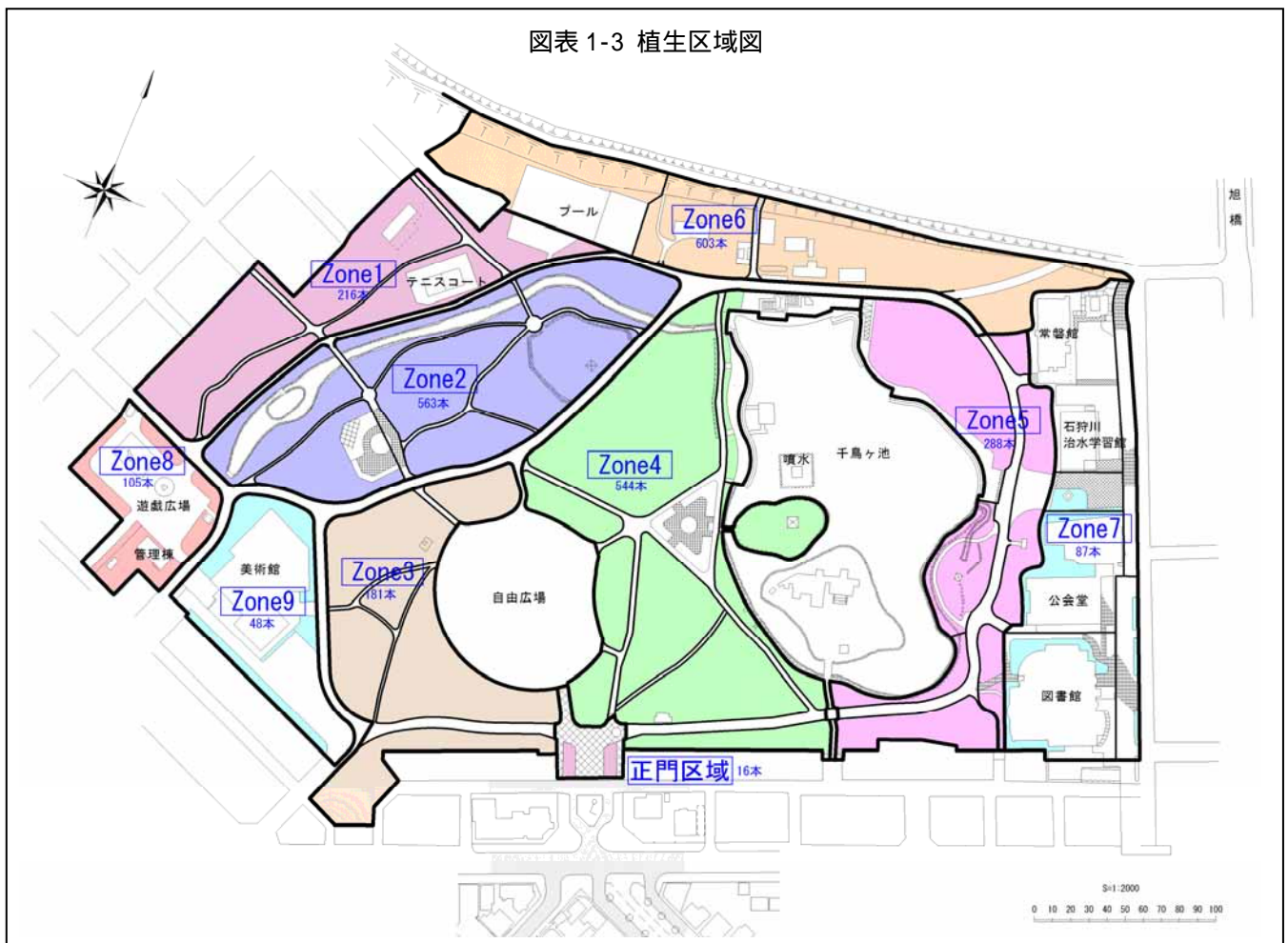
「旭田野鳥マップ」(旭川市環境部環境保全課)より

植生

本公園には、85種2,651本の樹木が生育しています。この内、胸高直径が10cmを超える樹木が約1,800本と比較的大きな樹木が約70%を占めています。

主に生育している樹種は、エゾヤマザクラ、イチイ、イタヤカエデ、ハルニレ、モミジ、ヨーロッパアカマツ、ナナカマド、ニオイヒバ、マユミ、ニセアカシアとなっています。

図表 1-3 植生区域図のとおり、公園内を主な園路や地形で10ゾーンに分け、樹木の分布を調べた結果を図表 1-4 ゾーン別樹木一覧に記します。



図表 1-4 ゾーン別樹木一覧

Zone	各ゾーンの特徴と生育している樹木
Zone1	公園の西側で敷地は住宅地と接している。 31種216本の樹木が生育している。
	ツリバナ, イタヤカエデ, エゾヤマザクラ, ヨーロッパアカマツ イチョウ, ナナカマド, ズミ, スモモ, トドマツ, アカイタヤ ヨーロッパトウヒ, ハルニレ, イヌエンジュ等
Zone2	メインの園路に接する公園内の主要な緑地区域。 親水空間や公園唯一の庭園がある。43種563本の樹木が生育している。
	マユミ, イチイ, エゾヤマザクラ, イタヤカエデ, モミジ, ポプラ アカエゾマツ, ナナカマド, ハルニレ, ヨーロッパアカマツ ニセアカシア, カツラ等
Zone3	多目的広場周辺の区域で芝生が広がっている。 25種181本の樹木が生育している。
	イタヤカエデ, ヨーロッパアカマツ, ヨーロッパクロマツ, イチイ イチョウ, トドマツ, ハルニレ, ナナカマド, ニオイヒバ, エゾヤマザクラ ストロブマツ, モミジ, トチノキ等
Zone4	千鳥ヶ池周辺や正面入口の前方に位置する公園内の主要な緑地区域。 39種544本の樹木が生育している。
	エゾヤマザクラ, イチイ, ニオイヒバ, モミジ, イタヤカエデ ハルニレ, ヨーロッパアカマツ, イチョウ, チョウセンゴヨウ, ドロノキ キャラボク, シダレヤナギ, シダレザクラ等
Zone5	千鳥ヶ池東側で図書館や公会堂などの文化施設の裏側に位置する区域。 36種288本の樹木が生育している。
	イチイ, エゾヤマザクラ, イタヤカエデ, シダレザクラ, モミジ ハルニレ, ヨーロッパトウヒ, ヨーロッパアカマツ, ハウチワカエデ サワラ, シラカバ, ナナカマド等
Zone6	公園の北側に位置する石狩川堤防に沿った区域。 51種603本の樹木が生育している。
	エゾヤマザクラ, ハルニレ, ニセアカシア, イタヤカエデ, ネグンドカエデ イチイ, スモモ, ヤマグワ, キササゲ, ナナカマド, ヨーロッパトウヒ ドロノキ, ヨーロッパアカマツ等
Zone7	中央図書館, 公会堂などの文化施設のある施設周辺区域。 16種87本の樹木が生育している。
	ナナカマド, ハルニレ, シラカバ, プラタナス, ナツバキ イタヤカエデ, コリンゴ, ニオイヒバ, ヤチダモ, エゾヤマザクラ イチイ, ヨーロッパアカマツ等
Zone8	遊具広場や公園の管理棟が立地する区域。 22種105本の樹木が生育している。
	モミジ, エゾヤマザクラ, イタヤカエデ, イチイ, ストロブマツ ニオイヒバ, ヨーロッパトウヒ, コリンゴ, サワラ, ハルニレ ミズキ, ヤチダモ, オニグルミ等
Zone9	美術館及び駐車場がある区域。 6種48本の樹木が生育している。
	バンクスマツ, ヨーロッパアカマツ, イタヤカエデ, ヨーロッパクロマツ イチイ, モミジ
正門区域	7条緑道と接続する公園のメイン入口区域。 4種16本の樹木が生育している。
	イチイ, イタヤカエデ, エゾヤマザクラ, ハルニレ

1-3 計画地の利用状況

平成24年4月1日～平成24年4月16日の期間で、無作為に抽出した3000人の市民の方を対象に実施した常磐公園についてのアンケートの集計結果から、常磐公園の利用状況は以下のようになります。

過去1年間の常磐公園の利用状況

過去1年間に公園を利用した人の割合はほぼ5割であり、年配の方の利用者が多くなっております。30代40代の方は利用率が高く、職業別では、主婦の方の利用率が高くなっており、子供連れでの利用が多いと予想されます。

また、公園の利用頻度は年数回程度の方がほとんどであり、特に利用頻度が高いのは60代以上の方となっております。

主な利用目的

公園の利用目的はイベントや施設利用など常磐公園固有の特徴が多く、理由としては駐車場の少なさなど交通の便の悪さが予想されます。年代別で見ると、20代30代はイベント、60代以上は施設が主な利用目的となっております。

日常の文化施設を利用の目的とされる方などを公園内に導き、賑わいを創出していくことが求められます。

2 . 計画内容の検討及び設定

2-1 上位・関連計画

本公園に関する上位計画及び関連計画は以下のものが策定されています。

文化芸術ゾーン基本構想（平成 21 年度策定）
旭川市かわまちづくり計画（平成 21 年度策定）
中心市街地活性化基本計画（平成 22 年度策定）

2-1-1 文化芸術ゾーン基本構想

「文化芸術ゾーン基本構想」で定めている基本方針及び整備方針を以下に記します。

文化芸術ゾーン全体の整備方針

**『～地域資源を活かした文化・芸術を基調とする
魅力ある都心空間の形成～』**

整備方針

- 公会堂：～市民文化の新たな創造の場～
・耐震補強や増築を含む大規模改修
- 常磐館：～市民文学活動の拠点施設～
・文学館機能の充実化や部分的な改修
- 施設周辺部：～やすらぎと利便性に優れた都心空間～
・駐車帯や常磐公園東側エントランスの整備
(常磐公園との一体化の強化)
- 河川空間：～文化芸術ゾーンの賑わい創出，来訪者の利便性向上～
・イベントスペースの充実化
(駐車スペースの確保，常磐公園との一体化)

2-1-2 旭川市かわまちづくり計画

「旭川市かわまちづくり計画」で定めている水辺とまちづくりに関する基本方針を以下に記します。

水辺とまちづくりに関する基本方針

- ・ 自然との調和を図りながら、石狩川と牛朱別川を中心に、隣接する常磐公園や美術館、公会堂、野外彫刻などの既存の文化芸術的資源に着目し、当該地区を「文化芸術ゾーン」として位置づけ、それらの施設と一体となった回廊及び河川公園の整備を実施するとともに、緑道や街路樹などを整備した質の高い動線で市街地中心部や他の観光地とのネットワーク化を図ることで観光都市としての機能を高めることはもちろん、市民が日常的に文化・芸術施設に触れあえる場を創出します。

個別整備計画の特徴

- ・ 社会情勢の変化より、活力を失いつつあるこの地域において、過去から蓄積されてきた有形、無形の財産を有効に活用した再整備を、石狩川や牛朱別川の改修と一体となって実施することで、河川空間と商業空間、住空間が一体となり、市民はもとより観光客にとっても魅力ある市街地が創出され、かつての賑わいを取り戻すことが期待できます。

図表 2-1 文化芸術の動線



2-1-3 旭川市中心市街地活性化基本計画

「旭川市中心市街地活性化基本計画」では、中心市街地活性化に向けたビジョンを以下のように設定しています。

活性化に向けたビジョン

- ・ 買物公園を中心軸とした機能集積の促進。
- ・ 中心商店街地区を近隣とする各地区との相互連携による拠点機能の充実。

常磐公園地区（文化芸術ゾーン地区）

- ・ 常磐公園や7条緑道など豊かな緑に恵まれた空間があり、道立美術館，公会堂，中央図書館，川のおもしろ館，常磐館，西川徹郎文学館，市民文化会館等，文化・芸術関連施設が多い地区であり，文化・芸術をテーマに更なる集客力の向上と7条緑道の整備などを通じて買物公園への人の流れの誘発と回遊が期待される地区である。
- ・ こうした地区の特性を活かし，中心市街地活性化のビジョン，基本方針を踏まえて，「文化・芸術の陽で中心軸を照らし，暖めるまち」を目指す。
- ・ ただし，駐車場不足や施設の老朽化が進んでおり，多くの市民や観光客の来街を阻害する恐れがあるため，施設の充実を図っていく必要があり，事業の実施を通じて，買物公園の北に位置する集客・交流ゾーンとして買物公園との連携を強化し，相乗効果を得ながら，買物公園への誘客も図っていく。

集客力をアップさせる主な事業

- ・ 公会堂リニューアル整備事業
- ・ 常磐公園周辺整備事業
- ・ 石狩川・牛朱別川整備事業 など

集客力を買物公園（中心軸）に連動させる事業

- ・ 7条緑道整備事業
- ・ 中心市街地循環バス運行事業
- ・ 旭川冬まつり開催事業 など

2-2 現状課題の整理

本公園の改修に向けて現状の課題を整理します。なお、課題の整理については「常磐公園全体」、「施設周辺区域」、「河川空間」、「維持管理面」の4つに分けて整理し、また常磐公園の樹木の現状として、「常磐公園の緑の計画（案）」より抜粋して記します。

常磐公園全体

課題1：全体的に駐車場が不足している。

課題2：公園の入口の位置がわかりづらい。

課題3：樹木などによりうす暗いイメージの箇所が存在する。

施設周辺区域

課題4：図書館前道路の一時停車車両による通行障害がみられる。

課題5：周辺部から各施設への案内標識が不足している。

課題6：各施設間の回遊性、常磐公園との一体感が弱い。

河川空間

課題7：イベント時には多くの市民が集まるが平常時には利用が少ない。

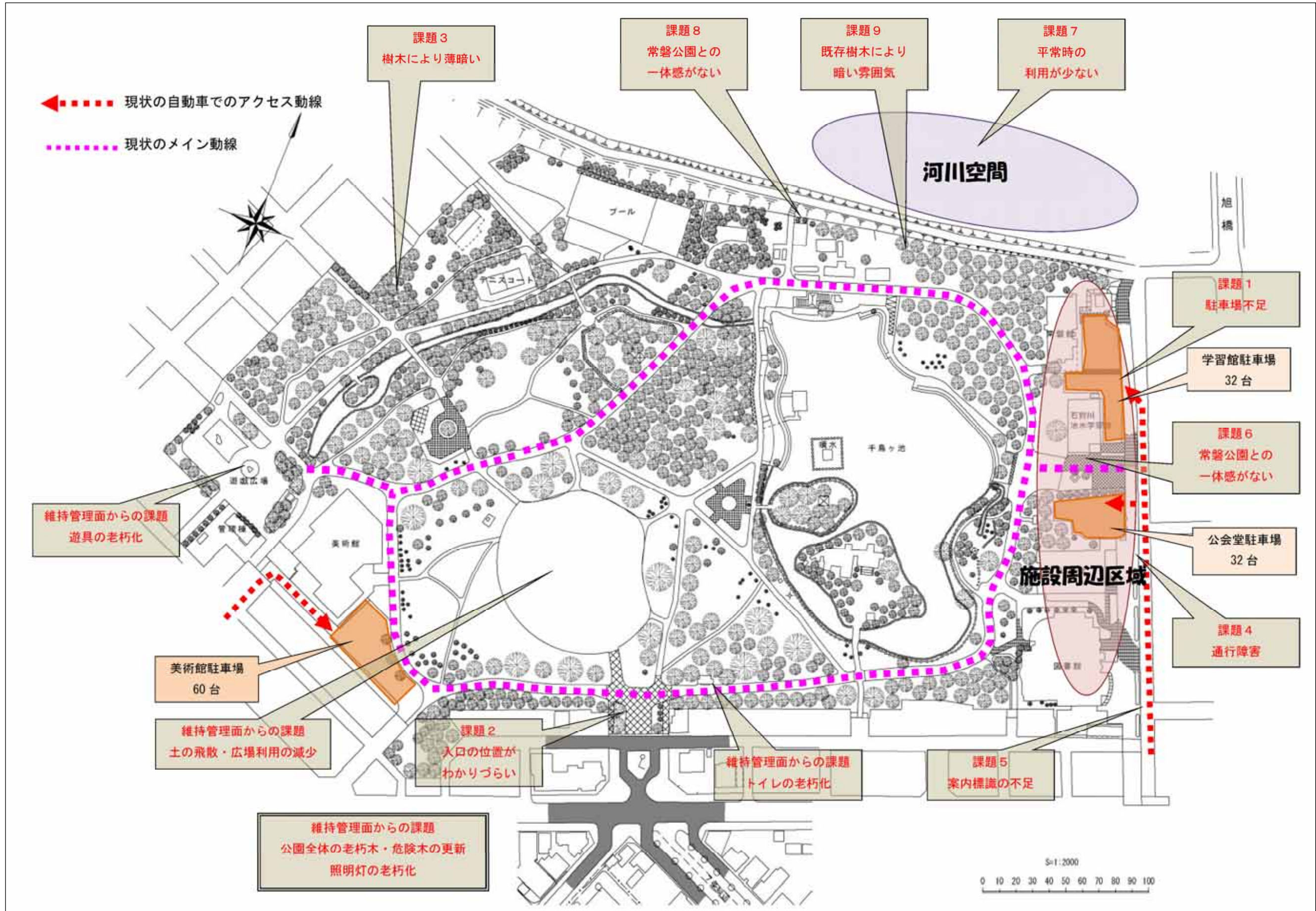
課題8：常磐公園と河川空間が分断され一体性がない。

課題9：堤防付近は樹木により暗い雰囲気になっている。

維持管理面からの課題

- ・ 老朽化した樹木に対する公園来訪者への安全確保。
- ・ 多目的広場の土の飛散が激しく水溜りもできている。機能を含めた改修の検討。
- ・ 遊戯広場の遊具や照明灯など施設の老朽化にともなう施設更新の検討。
- ・ 一定の役割を終えたモニュメントや記念碑の扱いについて。
- ・ 公園全体の雨水排水施設の見直し。

図表 2-2 現状の課題図



常磐公園の樹木の現状

既存樹木については、本公園内の場所によって生育状況が異なることから、主な園路や地形で10のゾーンに区分して、主なゾーンの特徴や課題を整理しました。

各ゾーンの配置は4ページの図表1-3 植生区域図を参照。

ゾーン1（公園西側住宅付近）

住宅街との関係で、日当たりを悪くさせたり、住宅付近にあるスモモがマイマイガの温床となっています。枝が住宅に影響を与えるため、枝が剪定され、枯れてしまった樹木もあります。

ゾーン2（親水空間や公園唯一の庭園がある区域）

庭園を囲んでいる2百数十本のアカエゾマツの幼木と庭園内に密植されたアカエゾマツの今後の生育が懸念されます。

ゾーン3（自由広場を取り巻く馬蹄形の区域）

形質の良いミズナラやハルニレが育っています。維持管理上でも高所作業車を接近させて枯れ枝の除去作業が可能な区域です。

ゾーン4（公園の中央部を南北に密集する区域）

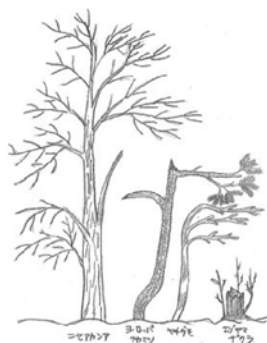
大径木が多く鬱蒼としており、林床に草本が少ないなどにより、貧栄養などの土壌に影響を及ぼし、樹木群は衰退していく可能性があります。

ゾーン5（図書館や公会堂などの文化施設の裏側に位置する区域）

当区域に多く分布しているエゾヤマザクラは、箒型になっており、花の咲く位置が高くなっています。花見のような鑑賞目的からいうと目線の高さに花を咲かせる枝振りが望ましいです。

ゾーン6（公園北側堤防区域）

上層樹木に被圧されて中層以下の樹木は偏形し、枯れ木・枯れ枝が生じています。また、樹冠は河川敷地側に流れてしまっており、エゾヤマザクラは並木としての体を成さないくらいに壊滅状態にあります。



被圧による偏形状況

2-3 計画のテーマ及び基本方針

近年、中心市街地の求心力低下に伴い、常磐公園周辺地区の活力も低下しつつあり、今後もこの地域の賑わいが失われることが懸念されています。上位・関連計画で述べたように地区の魅力を高め、人の流れを作り出し、中心市街地の活性化に繋げるべく様々な構想・計画が進められています。本公園及びその周辺は、中央図書館や常磐館の文学資料館を初めとする社会教育施設や道立美術館や公会堂などの文化施設等が立地し、市民の文化・教育活動の場として親しまれてきました。また、本公園の緑豊かな樹木や旭川を代表する千鳥ヶ池、石狩川河川敷の親水空間など、中心市街地における貴重なオアシス空間として利用されています。

こうした地域の特性を活かし、文化芸術空間として、その魅力を高め、今後多くの市民や観光客が来訪することを目指し、施設の改善や機能の向上を通して、市民の文化活動の活性化を進めていく中で、本公園を「文化芸術」、「豊かな水と緑」の拠点として位置づけ、魅力ある都心空間の形成の一役を担うものとします。

常磐公園改修における計画のテーマ

『地域資源を活かした文化・芸術と 落ち着いたある緑地空間による 魅力ある公園の創出』

常磐公園改修における基本方針

文化芸術ゾーンの拠点として位置づけ、動線の見直しやサイン計画の充実を図り、文化芸術ゾーンを結ぶ回遊性の向上を図る。

交通渋滞の緩和と新たな賑わい空間を創出することで地域活性化を促進する。

河川空間との一体的な有効活用を図り、相乗効果を高める。

中心市街地の貴重な緑地空間として、北彩都との連携を図り、旭川らしい風景の創出と次世代への継承を視野に入れた緑の更新を図る。

安全・安心の観点から老朽化した施設の更新を図る。

日々の利用、維持管理を重視した改修を図る。

2-4 緑の計画（案）（詳細は、別冊「常磐公園の緑の計画（案）」による）

公園の緑は、人々に安らぎを与え、街並みに調和をもたらすのみならず、安全で快適な住環境を営む上で欠くことのできない役割を果たしています。

公園を訪れる人は、緑によって作り出される静かで潤いのある環境の中で、休息や散歩、運動等を楽しみ、心と体をリフレッシュさせ満足感や充足感を得ることができます。また、都市の緑はヒートアイランド現象の緩和や二酸化炭素の吸収、動植物の生息・生育環境の保存など多岐に亘る役割を担っています。

本公園には、2651本の樹木が生育しており、樹種もエゾヤマザクラやイチイ、イタヤカエデ、ハルニレ、モミジなど85種が存在しています。しかし、昭和40年代後半から早期に都市に緑を増やすという考えの下、将来樹形や樹高、密度を想定せずに植栽されてきたため、維持管理が困難な高さまで生長したり、密植状態や被圧などによる生育不良な環境をもたらしています。

本計画においては、常磐公園の緑の基本方針を定め、多様な観点から今後の整備・維持管理の方向性を検討することとします。

常磐公園の緑に求められる機能

「安全性」

多くの人々が安心してくつろいだり活動するために安全性という観点が最も重要です。樹木の危険性の処理や防犯面から死角や暗がりをつくらない配慮が必要です。

「快適性」

木陰で休息したり、子どもたちが芝生を走り回ったり、緑に親しんで公園を利用できる機能が重要です。公園は身近なオープンスペースとして、利用する人々が安らぎを得られる心地よい場所です。

「景観」

四季によって変化する草花や樹木の豊かな彩りの美しさを楽しみ、植物への関心を引き出す場所です。そのためには、景観を創る樹木や草花の生長にあわせた更新を進めていく必要があります。

「生態系」

植物やそれに集まる鳥や昆虫などの様々な生物の循環を間近に観察できる場所ではありますが、自然界とは異なった公園という環境の中で生態系と向き合うことが必要です。

2-4-1 基本方針

前頁で示した本公園の緑に求められる機能を踏まえ、4つの観点から基本方針を設定します。

テーマ 『緑を守り育てる』

安全性の観点から

本公園の樹木は、100年余りの歴史の中で、樹齢を重ね老朽化が進んでおり、倒木や落枝の危険性があります。緑の量を確保しつつ、質を高めるためには危険木を処理した後、後継木を育成しバランスに配慮しながら修景のための更新木を植栽していくといった緑の更新と適切な維持管理が必要となります。

快適性の観点から

本公園は、子どもからお年寄りまで誰もが楽しく心地よい時間を過ごせる空間です。郷土を代表する多種多様な樹木が生茂る中、木陰でくつろぎ四季の移ろいを感じ、安らぐことができるように、適切な維持管理が必要です。

景観の観点から

中心市街地の中の貴重な緑地空間として、また堤防から見る石狩川と旭橋、大雪の山々の風景と一体となった本公園の景観は、豊かな緑の存在によって支えられています。公会堂や中央図書館、道立美術館などの文化施設や、多数の彫刻が公園の緑に囲まれ、文化的な景観をつくり出しています。また、堤防沿いでは盛夏の散歩道には爽やかな木陰を演出しており、これらの景観を守るため、適切な樹木の維持管理が必要です。

生態系の観点から

自然界における生態系は、一定のサイクルの中で安定していきませんが、公園ではそうしたサイクルのなかで生態系を安定させていくことは難しく、何らかの形で人が手を加え、管理していく必要があります。特に常磐公園においては、短命の早生樹種が主要部を占めており、それらが寿命を迎え、徐々に衰退しつつある状況であることから、計画的な更新を進めていく必要があります。

2-4-2 整備方針

基本方針を踏まえ、「樹木の選定と配置に関する8つの方針」に従い、将来に都市公園としての質の高い緑が確保されていくように緑の更新，維持管理を進めていきます。

< 樹種の選定に関して >

旭川として誇れる風景を創出するため，現況の樹種を土台に北海道や旭川市周辺の環境に適した多様な郷土樹種とします。(景観・生態系)

四季を通じて楽しむことのできる花木，紅葉木，常緑樹など，開花・紅葉時期，さらには冬季にも配慮した樹種とします。(景観・生態系)

生きものや景観に配慮した多様な樹種とすると共に，老朽や衰退の早い樹種だけでなく，森林としての寿命のバランスが上手くとれるような樹種とします。(安全性・景観・生態系)

< 樹木の配置に関して >

不要な密植を避け，日照や通風を良くし，植物が生長できる空間が確保できるような配置とします。(安全性・快適性)

利用状況に合わせて，死角や暗がりができないような防犯面に配慮した配置とします。(安全性)

現況の樹種構成を生かしながら，樹種に合わせた適正な樹木の間隔で配置します。(安全性・快適性)

< 樹種の選定，樹木の配置に関して >

花粉，綿毛，日照障害など，近隣への影響や迷惑を与えないことに配慮した樹種や配置とします。(快適性)

枯れ枝の処理などが困難な高木は，生態系や景観，管理面を考慮し，樹林のアクセントとして配置します。(安全性・景観・生態系)



2-5 ゾーニング・動線計画

計画のテーマ及び基本方針を踏まえ、本公園を8つのゾーンとこれらを結ぶ4つの動線を設定します。

各ゾーン・動線は19ページの図表2-4動線・ゾーニング図を参照。

8つのゾーン設定

観賞・修景ゾーン

- ・ 常磐公園を訪れる人々のメインの集散の場として位置づけ、水辺とその周辺の緑がもたらす景観を楽しみながら、ゆったりと過ごす事のできる場所とします。
- ・ 紅葉や花など四季による彩りの美しさを楽しめる場所とします。
- ・ 千鳥ヶ池は、常磐公園のシンボルであるが、水質が問題となっているため、水質の改善に努めることで多くの人が集う場へ再生します。

多目的ゾーン

- ・ 常磐公園を訪れた人々が各々の目的に沿って多様な利用ができる広場とします。
- ・ 日常的な利用のほか、旭川市内の催しなどにも積極的な利用を促進していきます。

木立の緑陰ゾーン

- ・ 持続的で美しく、安全な樹木群を目指し、来園者が個々の木の状態や周りの木との関係などを観察できる場所とします。
- ・ 適切な維持管理と更新の下、多種多様な樹木をバランス良く配置し、質の高い緑を創出します。

親水の流れゾーン

- ・ 都市公園における親水性が活かされた流れを見る施設として整備の検討をしていきます。
- ・ 水質の向上や明るいイメージ創りに努め、修景的效果を図っていきます。

法面を彩る草花ゾーン

- ・ 法面を活かし計画的に草花等の植栽を図っていきます。

草花を楽しむゾーン

- ・ 四季を通して楽しめる草花を植栽し、彩りや香りが楽しめる場所とします。

遊びゾーン

- ・ 安全や防犯に配慮し、子どもたちが仲良く元気に遊ぶことのできる遊具広場とします。
- ・ 親子で楽しむことのできる遊具なども整備していきます。

スポーツゾーン

- ・ 公園利用者の健康増進やスポーツを通して交流を図る場所として検討していきます。

各ゾーンを結ぶメイン動線と補完する4つの動線

文化・芸術の回廊 ~メイン動線

- ・ 公園内の彫刻やモニュメントを初め、周囲の緑を楽しみながら回遊できる園路とします。
- ・ 7条緑道からの出入口の整備を図るとともに、河川空間や施設周辺区域との連続性を高める園路とします。

水辺の散歩道 ~観賞・修景ゾーン周辺

- ・ 常磐公園のシンボルである千鳥ヶ池の景色やそこに飛来する野鳥を観察することのできる園路とします。
- ・ 既設の木製デッキを活かし、水辺を楽しめる園路とします。

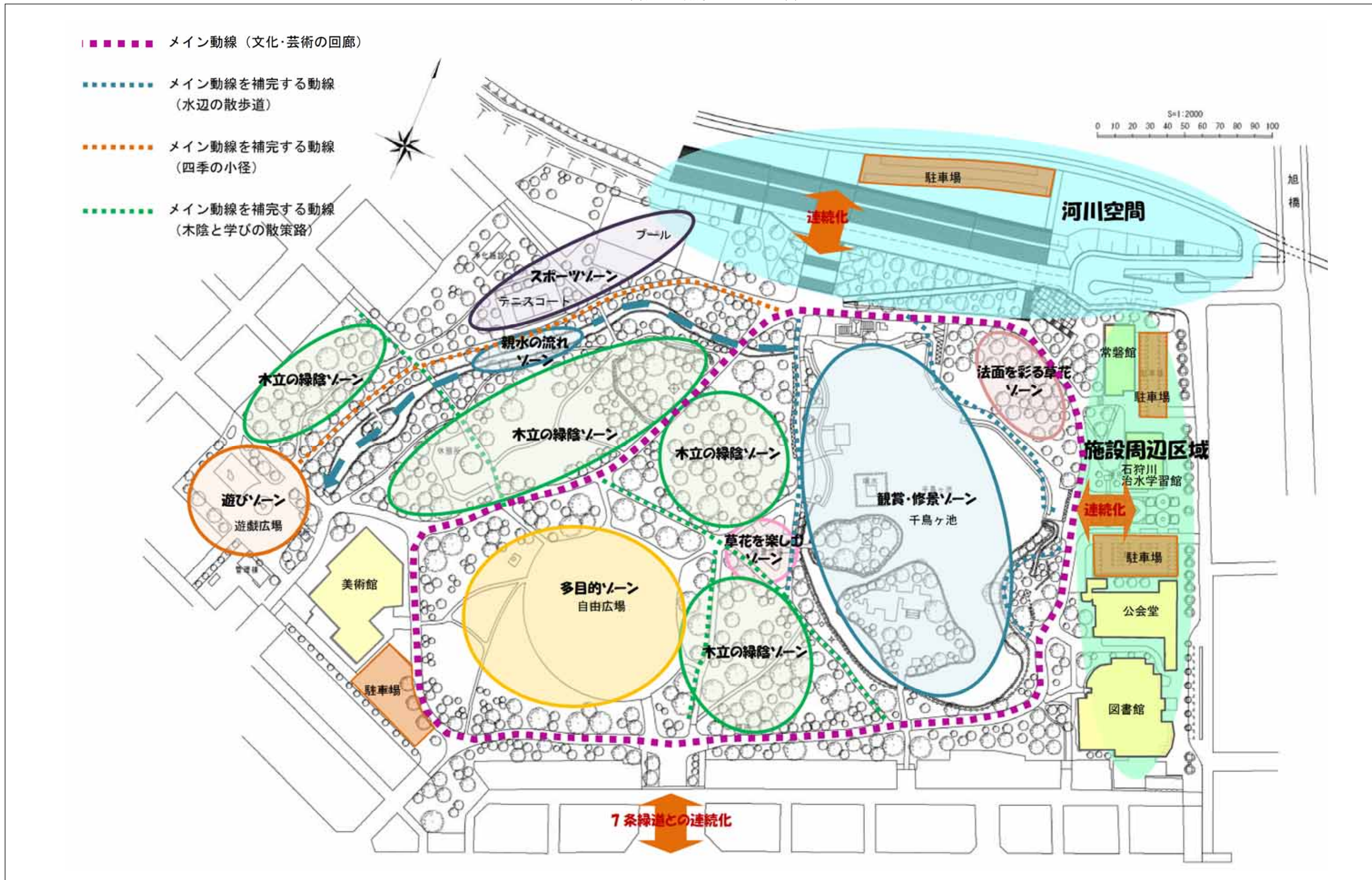
四季の小径 ~観賞・修景ゾーンと遊びゾーンを結ぶ動線

- ・ 鑑賞価値に優れた樹種や草花を主体とした緑化を図り、四季の移ろいが楽しめる園路とします。

木陰と学びの散策路 ~木立の緑陰ゾーン周辺

- ・ 公園内の大木やそこのできる木陰で休憩しながらゆっくり散策できる園路とします。
- ・ 樹名板や樹木説明板の充実を図り、緑を学びながら啓蒙できる園路とします。

図表 2-4 動線・ゾーニング図



3 . 個別計画

「2-2 現状課題の整理」にて挙げた課題を踏まえ、個別計画を検討します。

3-1 常磐公園全体

常磐公園全体の課題については以下のとおりとなります。

常磐公園全体の課題

課題 1：全体的に駐車場が不足している。

課題 2：公園の入口の位置がわかりづらい。

課題 3：樹木などによりうす暗いイメージの箇所が存在する。

以上の課題を踏まえ 3 つの整備方針を設定します。

常磐公園全体の 3 つの整備方針 ~ 常磐公園の新たな魅力の創出 ~

文化芸術ゾーンを結び回遊性を向上させる公園整備

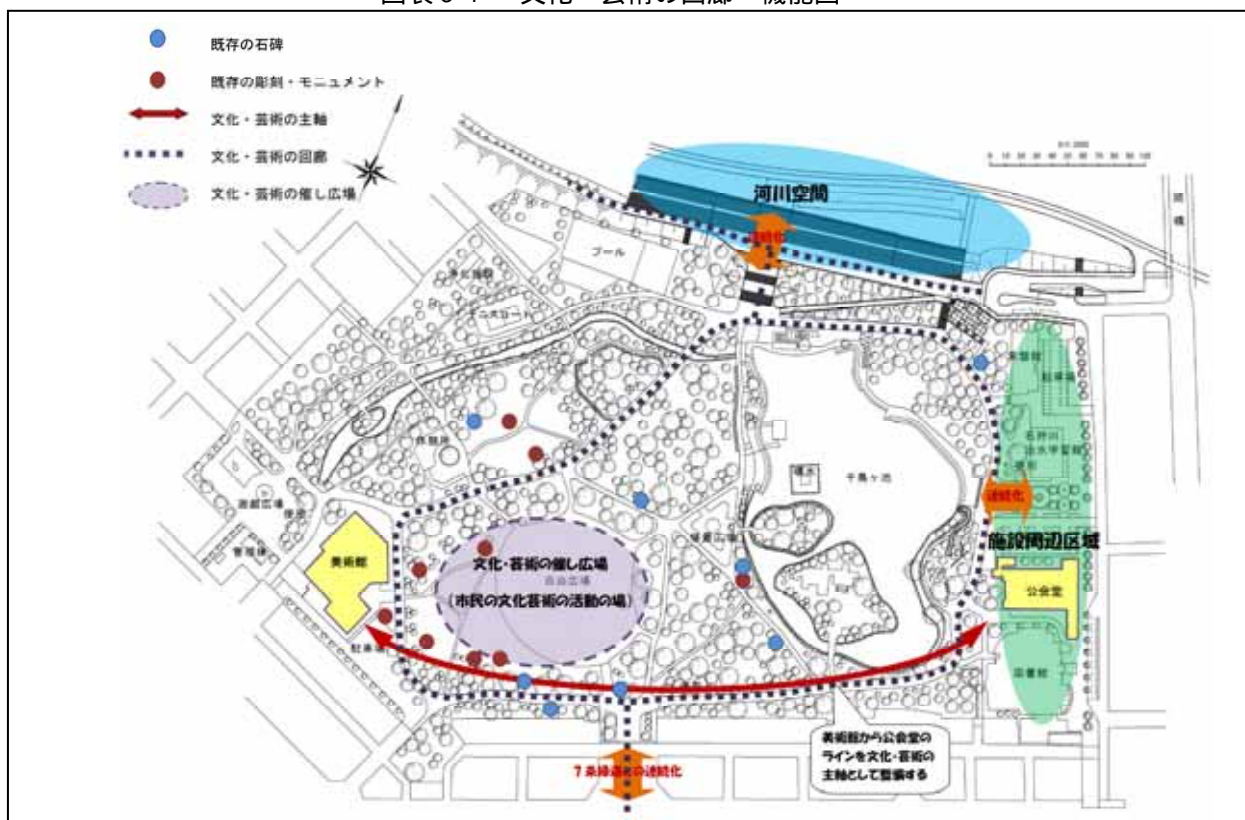
市民の文化・芸術活動を促す多目的広場の整備

常磐公園及び周辺施設とのわかりやすいサイン計画の充実

文化芸術ゾーンを結び回遊性を向上させる公園整備

- ・ 美術館と公会堂また、河川空間を結ぶ公園内のメイン園路を“文化・芸術の回廊”と位置づけ、彫刻やモニュメントを初め、公園内の緑を楽しみながら回遊できる園路として計画します。
- ・ 7条緑道から美術館と多目的広場や施設周辺区域を結ぶラインを文化・芸術の主軸として捉え、新たな公園の魅力が高まるよう検討し整備していきます。
- ・ 常磐公園全体のモニュメント等を見直し、文化芸術ゾーンとしての魅力の向上を図ることで来訪者の回遊性を高めるほか、既存の文化芸術施設とのネットワーク化を図り、河川空間や施設周辺区域との一体的な利用を促進します。
- ・ 既存の彫刻・モニュメントとの統一性に配慮しながら、「旭川市野外彫刻設置・管理検討会議」にて旭川市に深くゆかりのある作品の配置を検討していきます。
- ・ 野外彫刻をめぐる回廊として、常磐公園周辺だけでなく、北彩都地区から平和通買物公園・7条緑道を経た動線の連携を図ります。

図表 3-1 “文化・芸術の回廊” 機能図



市民の文化・芸術活動を促す多目的広場の整備

- ・ 広場の利用が減少していることから，市民の活動の場として利便性の高い広場の整備を行い，“文化・芸術の催し広場”として展開していきます。
- ・ 多目的広場として，市民の文化・芸術の活動の場として利用できるよう各種イベントの開催時に必要となる設備を整備します。
- ・ 現況の雨水排水機能を改善していきます。
- ・ 日常で子どもたちの遊びやスポーツなどに利用できる広場として整備していきます。

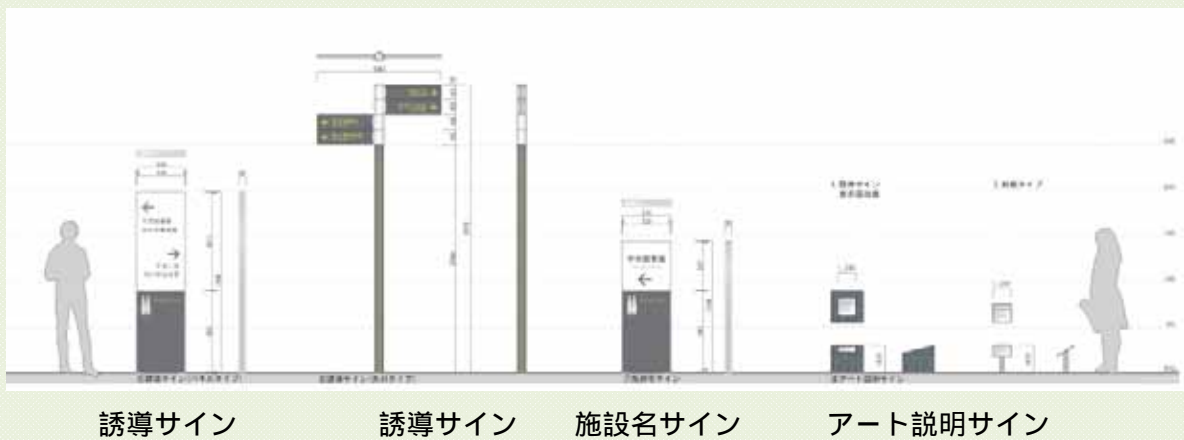


イベント利用状況

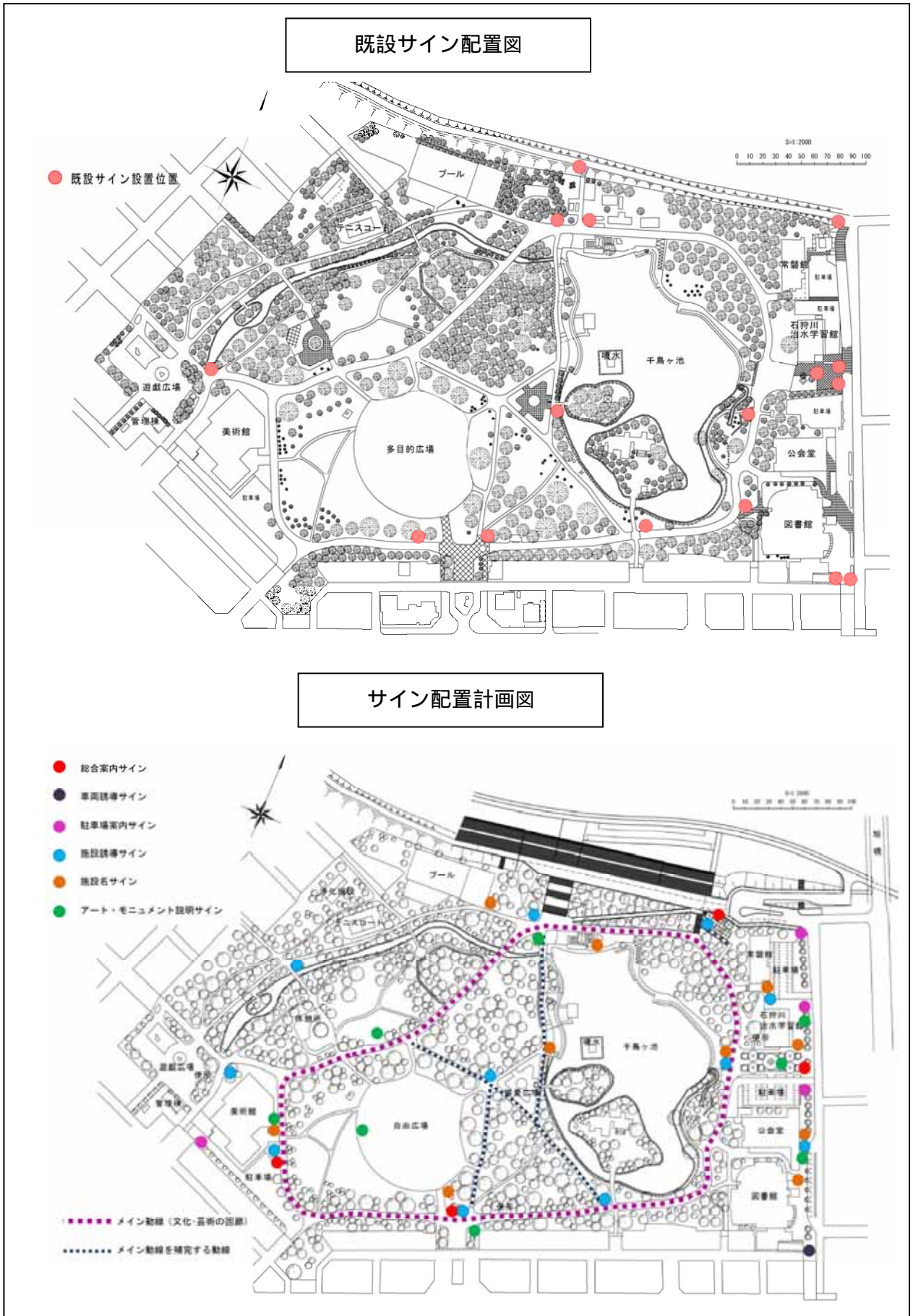
常磐公園及び周辺施設とのわかりやすいサイン計画の充実

- ・ 「旭川市公共サイン整備指針」に基づいたサイン計画により、7条緑道、施設周辺区域及び河川空間との回遊性や快適性を高めます。
- ・ 施設周辺区域や河川空間と統一したサイン計画を行うことで、視覚的な一体感と連続性を高めます。
- ・ 市内中心部より公園や各施設の位置を分かりやすくするために、公園の沿道、平和通買物公園及び7条緑道に案内標識や誘導サインの設置などの整備を図ります。
- ・ 各駐車場の利便性を向上させ、利用者を増やすために、わかりやすいサインの整備を図ります。

図表 3-2 サイン計画案



図表 3-3 サイン配置計画図



3-2 施設周辺区域

施設周辺区域の課題は以下のとおりとなります。

施設周辺区域

課題 4：図書館前道路の一時停車車両による通行障害がみられる。

課題 5：施設周辺区域から各施設への案内標識が不足している。

課題 6：各施設間の回遊性，常磐公園との一体感が弱い。

以上の課題を踏まえ整備方針を設定します。

施設周辺区域の整備方針 ~新たな賑わい空間の創出と河川空間・ 常磐公園との一体化~ 交通渋滞の緩和と新たな賑わい空間の整備

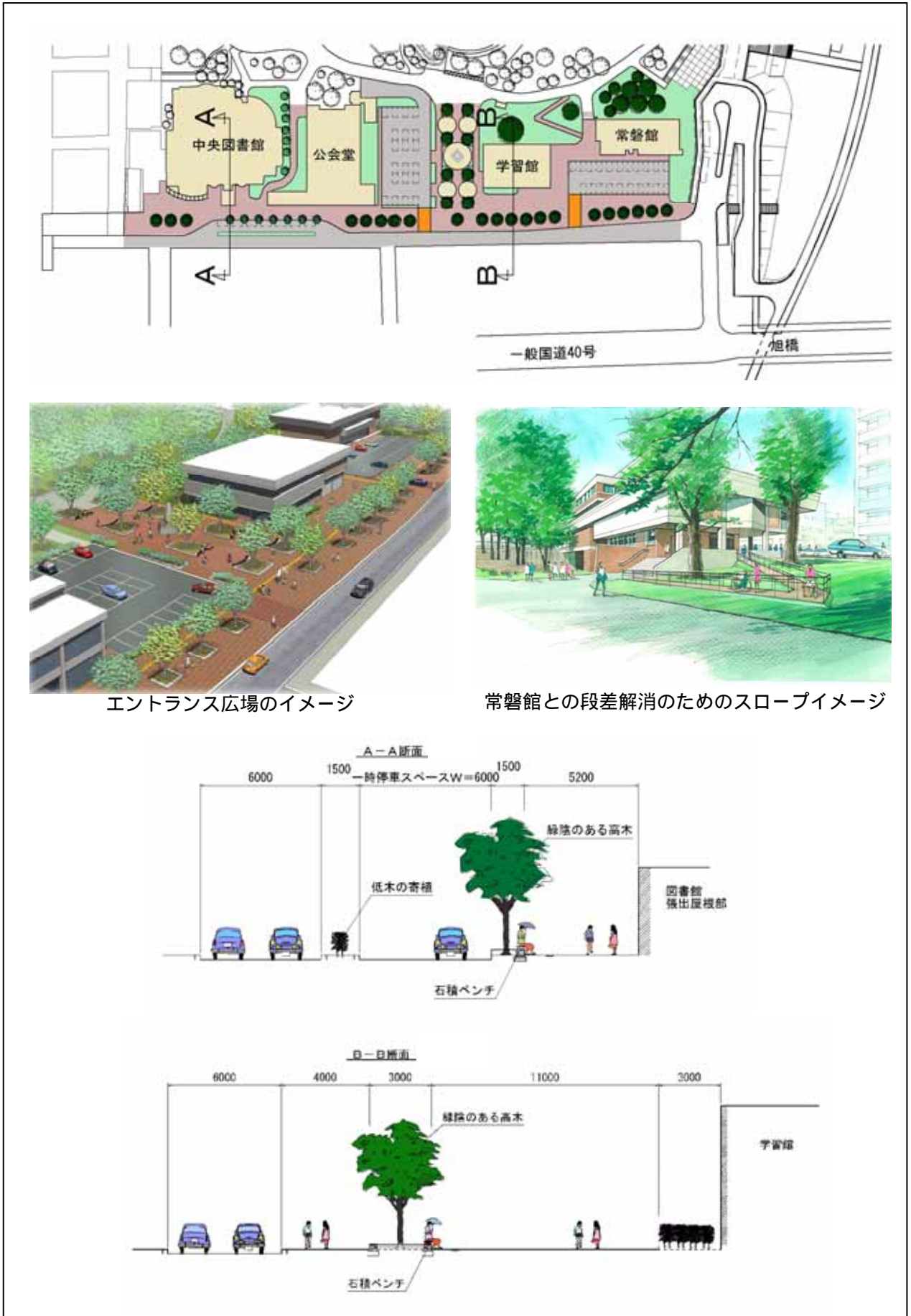
交通渋滞の緩和と新たな賑わい空間の整備

- ・ 新たな賑わいと利便性に優れた都市空間となるよう，学習館横に新たなエントランス広場を整備します。
- ・ エントランス広場では，文化・芸術ゾーンにふさわしい彫刻やモニュメントの配置を検討するとともに，常磐公園との連携を高めた計画とします。
- ・ 図書館及び公会堂前には，路上駐車による交通障害を緩和するため，一時停車スペースを確保します。
- ・ 常磐公園及び周辺施設への円滑なアクセスを確保するため，利便性に配慮した駐車場を整備します。
- ・ 公会堂への搬入車両通路の整備を行います。
- ・ 既設のオブジェや移動式花壇などは，景観等を考慮して撤去や再設置を行います。
- ・ 公園来訪者を案内するための公園のインフォメーション機能をエントランスに整備します。



中央図書館・公会堂前の一時停車スペースのイメージ

図表 3-4 施設周辺区域計画案



3-3 河川空間

河川空間の課題は以下のとおりとなります。

河川空間

課題 7：イベント時には多くの市民が集まるが平常時には利用が少ない。

課題 8：常磐公園と河川空間が分断され一体性がない。

課題 9：堤防付近は樹木により暗い雰囲気になっている。

以上の課題を踏まえ、今後の整備計画を策定するための検討案を挙げます。

河川空間の整備方針（案）

文化・芸術ゾーンの賑わい創出や来訪者の利便性向上のための整備

文化・芸術ゾーンの賑わい創出や来訪者の利便性向上のための整備

- ・ 堤防を緩傾斜化することにより、常磐公園との一体的な整備を図るとともに安全性や利便性の向上に努めます。
- ・ 常磐公園や施設周辺区域の慢性的な駐車場不足を補うべく、常設 80 台の駐車場を確保するとともに、常磐公園との動線を強化します。
- ・ 「常磐公園の緑の計画」に基づき、既存の樹木については、樹木の保全区域を設けたり、移植可能な樹木や残置可能な樹木については専門的な見地により可能な限り保全等を行い、計画的な植栽を進めていきます。
- ・ 賑わいのある水辺空間を創出するという観点から、オープンカフェの設置など、イベントスペースとしての活用について検討していきます。



河川空間周辺の今後の検討案としてのイメージ

「河川空間」の整備については、「常磐公園の緑の計画」に基づき、専門家により具体的に検討を進めていきます。「河川空間」の整備内容については別途市民の皆様からのご意見を求める機会を設けることを予定しております。

3-4 その他改修計画

維持管理面からの課題をうけ、以下のような整備計画を進めます。

その他の改修計画

老朽化した施設の更新

誰もが利用しやすい公園整備

老朽化した施設の更新

- ・ 本公園の施設である遊戯広場の遊具，休憩施設（四阿，ベンチなど），管理施設（照明灯）及び便益施設（トイレ）などは，整備されてからの経過年数が30年以上経っている施設が多くなっています。経過年数による施設の老朽化に伴い，来訪者へ満足なサービスが供給できないばかりか安全・安心面において問題が生じる可能性があります。従って，老朽化した施設については，先に旭川市で策定されている「公園施設長寿命化計画」に則り，適宜更新を進めていきます。

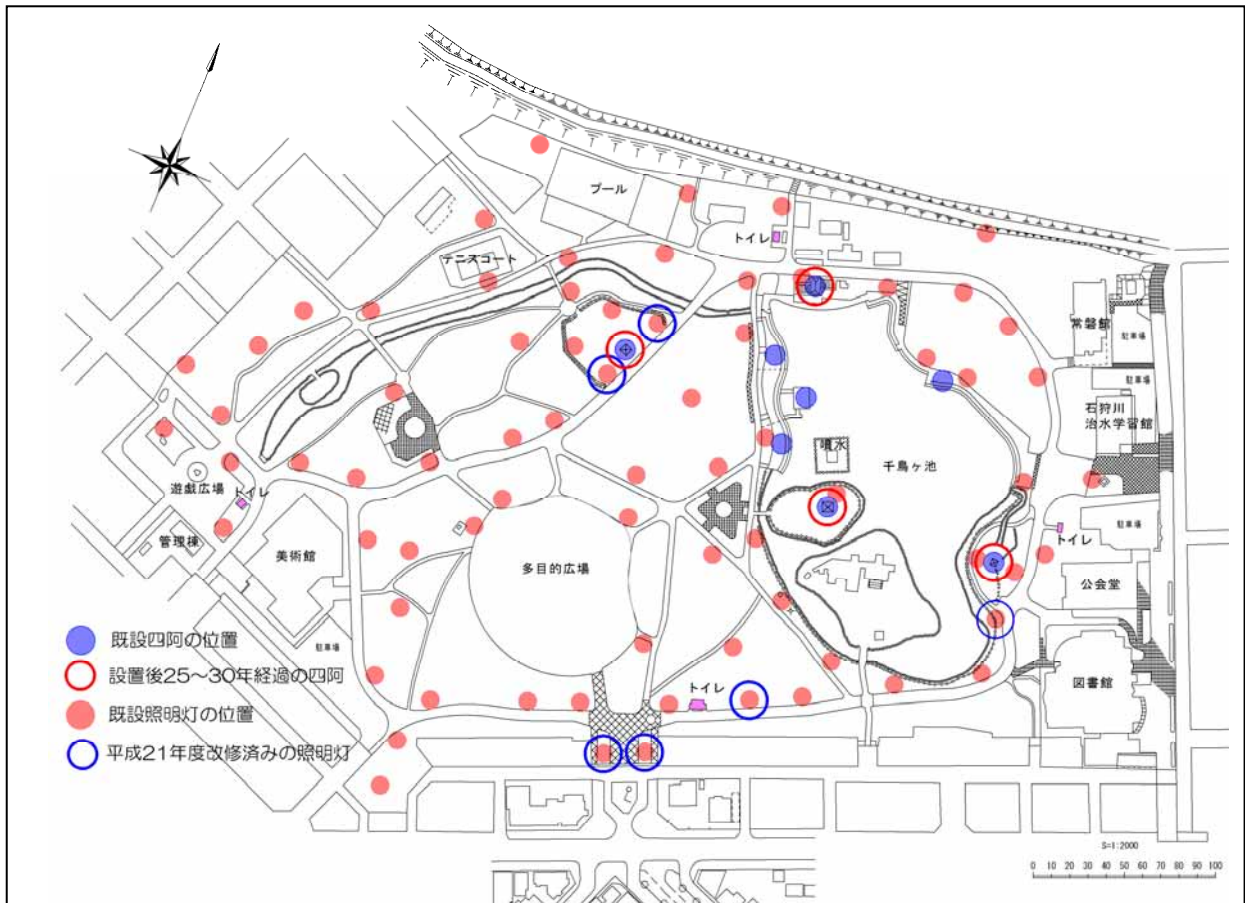


遊戯広場の改修イメージ

誰もが利用しやすい公園整備

- ・ 身障者はもとより，高齢者や乳幼児を連れての利用など，誰もが利用しやすい公園とするため，バリアフリー新法に基づくハード面の整備とユニバーサルデザインの観点からソフト面の充実を図っていきます。

図表 3-5 その他更新施設計画図



休憩施設(四阿, ベンチなど)

- ・ 周囲の景観に合ったデザインや公園全体で統一されたデザインへの改築や新設を検討していきます。

管理施設(照明灯)

- ・ 公園へのアプローチ道路から出入り口部へ向かって明るい雰囲気となるよう検討していきます。

便益施設(トイレ)

- ・ バリアフリー対応済みの1箇所(遊戯広場横)を除き,劣化度合いの進行に合わせ,バリアフリー対応トイレへの更新・新設を検討していきます。